
心の奥の扉の先の可能性

天衣無縫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

心の奥の扉の先の可能性

【Zコード】

Z5172Y

【作者名】

天衣無縫

【あらすじ】

生まれた日も生まれた病院も育った町も同じ。家も隣同士。そんな二人の成長を描く純愛ラブ話。『いつかきっと見つかるよ自分の可能性が』『時間はかかるけどな。でも絶対見つかる。俺たちが証明するよ。』

主に小学編、中学編、高校編に渡つて描きたいと思います。尚、感

想や評価、お気に入り登録などぜひよろしくお願いします！

ヒストリー

七月七日。とある町のとある病院で一つの産声が上がった。

元気な男の子だ。

そしてそれを追いかけるかのように一時間後別の病室で産声が上がる。

今度は女の子。

時期が近いこともありその一人の赤ん坊は同じ病室になつた。

互いの親は家が近い、というか隣同士のため関係は親密だった。

一週間後名前がつけられる。

男の子の名前は
『^{さわむら} 沢村』

女の子の名前は
『^{さくらい} 桜井』

それが一人の出会いだった。

第一話 お隣さん－尋音田線－

俺は沢村 尋音。今日から小4になる！

俺の兄貴は七つ離れていて高校生。去年は一年生でインターハイ出土んだ！

ちなみにテニスね。

絶対本人には言わないけど兄貴に憧れて俺もテニスをするんだ！近くのテニスクラブの入団条件が小4以上だったから今年からやつと入れるんだ。

「尋音ー？なにそんなにはしゃいでるの？」

今声をかけてきたのは桜井 濠。すぐ隣に住んでて窓から少し大きな声を出せば聞こえるくらいの距離だ。

「あー渚！だつて今日から四年生だぜ？嬉しいじゃん！」

「尋音つて単純だねー」

「純粹つて言えー。今から迎えにいくぞ？」

「うんー。」

渚はクラスの中でもかなり可愛い方だと思つ。俺の友達の中でも渚

を好きな奴つて結構いるし。

「じゃ行ってきまーす。」

「気をつけなよー」

おれん家は俺、兄貴、母さん、父さんの四人家族だ。

朝は兄貴と父さんは俺よりも先に出ていく。

そして走って十秒の渚の家のチャイムを鳴らす。

「あ、尋音くん。ちよつと待つててね・・・渚ーーー。」

「今行くー

「毎日ありがとね」

「いや俺も一人じゃ寂しいから」

「ふふ。」

少し待つと一階から渚が降りてくる。

「お待たせー」

「おー。じゃ行こうぜ。おばさん行ってきまーす。」

「行ってらっしゃー

おばさん右手を振って学校へと歩き出す。

「尋音もテニスクラブ入るんでしょう。」

「おーーーあ、渚もどうだ?」

「私はあんま運動得意じゃないから・・・」「ものは試しだよ今週末だから一緒にに行こうぜ」

「ま、まあ見てみてからね
「よしーあ、誠司ーー！」

誠司、空野 誠司は同じクラスの親友だ。

「あ、尋音おはよう」

「誠司もテニスクラブ入るんだよな？」

「うんボクも行くよ。渚ちゃんもおはよっ」

「はあはあ尋音早いよー」

「あははホントに体力ないな」

「もーだから言つてるじゃん！」

「楽しそーじやん

「あ、月海おはよ」

月海こと、吉高 月海もクラスメートだ。

この四人が最近一緒にいるメンバーだ。

始業式も終わり、帰りも同じ、渚と帰る。

「渚? 今日はそっちの家いっていい?」

「あーでも美咲いるよ?」

「いいよ全然」

「うん・・・」

「じゃ、ランドセル置いたら行くから」

ダッシュで部屋に行つてランセルを投げて一階に降りる。

「渚ん家行つてくるー

「曲がりちゃん」による「へーへー」

16

由希ちせんとほ瀬の母ちん。

今度はチャイムを鳴らさずに入る。

「 もじゅもつもーす！」

階段を登つてすぐ右、そこが渚の部屋だ。

「入るよーつておい」

部屋に入ると渚が妹の美咲とケンカしていた。

「美咲ー！」

何やつおやつの取り合いでしていいるみたい。

「ケンカすんなー」

「あ、ヒロ兄ー！ナギ姉がー！
「違うもんー！それ私のだもんー！」

「いいじゃんか、お姉ちゃんなんだろ？」「
えへへーヒロ兄大好きー！
「カンケーないもんー！」

美咲は俺たちより五歳下、幼稚園の年中だ。

「渚にはあとでコンビニ行ってなんかお」「るかりや」「
・・・しようがないな。はい、『メンね美咲』
「ありがと」

俺からしたら下に兄弟がいるのついついやましいんだけどなー俺末
つ子だし。

それから六時くらいまで遊ぶ。普段は五時くらいまでが門限なんだ
けど渚ん家に行く時だけは甘くなる。

「じゃまた明日なー」

「うんバイバイ

下に降りるとお母さんまだいなー。どうせウチでまた長話でもし
てるんだろう。

今度はおじやましましたを言わずに出る。

「ただいまー」「
尋音くんー！」

あ、あれ母さんは?

リビングに行つても母さんはいなかつた。

「海斗くんが・・・」

「兄貴がどうかしたの!-?」

「じ、事故にあつたつて・・・」

「・・・兄貴!」

「尋音くん!」

それを聞くと俺は走り出した。病院は分かつてゐる。この辺なら俺が生まれた総合病院だと思つ。

そして病院に着いた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5172y/>

心の奥の扉の先の可能性

2011年11月17日21時26分発行